

Olanzapine 療法に伴う体重増加に対する ranitidine の抑制作用

清原 義明¹⁾ , 内田 直樹¹⁾ , 尾籠 晃司¹⁾ ,
塚田 淳也¹⁾ , 松下 満彦¹⁾ , 吉永 一彦²⁾ ,
西村 良二¹⁾

¹⁾ 福岡大学医学部精神医学教室

²⁾ 福岡大学医学部社会医学系総合研究室

要旨：非定型抗精神病薬である olanzapine は副作用として体重増加が著しいと言われている。一方ある種の H₂-blocker には体重増加の抑制作用があるといわれている。しかし ranitidine をヒトに投与して olanzapine 誘発性の体重増加を抑制しうるかどうかを確認した試験はまだない。そこで今回 olanzapine を服用している患者で ranitidine 併用群と非併用群を比較して体重変化の仕方に差があるかどうかを評価し、ranitidine が olanzapine による体重増加の抑制作用を有しているかどうかを確認することにした。またベースライン時の BMI が及ばず ranitidine の効果への違いも検討した。

初めて olanzapine を服用する統合失調症患者を対象とし、8 週間の観察期間を設定した。併用群は 300mg/day の ranitidine を服用することとした。BMI については 25.0 以上の患者を肥満群、それ未満の患者を非肥満群とした。

66 名の患者から同意を得ることができ、34 名が非併用群に、32 名が併用群に割り付けられた。解析の対象となったのは 8 週間治療を継続できた併用群 23 名、非併用群 27 名の計 50 名である。併用群の体重増加抑制作用は明らかで、投与 8 週間目では非併用群が 3.1 ± 3.3kg 体重増加したのに対し併用群は 1.0 ± 2.8kg の体重増加にとどまった。ベースライン時の BMI 別の体重増加抑制作用に関して、肥満群では併用群の体重増加抑制作用は明らかであったが、非肥満群では ranitidine による体重増加抑制作用は認められなかった。また ranitidine 非併用群の方が食欲の亢進を訴えた患者が多かった。

今回 ranitidine が olanzapine 療法による体重増加を有意に抑制できることが明らかになった。またその体重増加抑制作用は非肥満群には現れず、肥満患者に現れることが確認できた。

キーワード：Olanzapine, 体重増加, Ranitidine, 体重増加抑制作用